



取県教育センターだより

Tottori Prefectural Education Center News

〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201 【TEL】0857-28-2321（代表）【FAX】0857-28-8513
【URL】http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/ 【e-mail】kyoikucen@pref.tottori.lg.jp

次世代リーダーの育成をめざして！！ ～H30県教育センター長期研修～

本年度から長期研修の仕組が大きく変わりました。校内OJTによる人材育成を推進していくことをねらいとして、これまでの個人研究中心の研修から、学力向上に係る校内研究体制の取組を支援する研修へと変更しました。また、教育センターや所属校等における一年間の研修を通じて、学校や市町村等の教育課題を解決するための中核となる教員の育成、さらには本県学校教育の次世代リーダーの育成をめざしています。本年度は、3名の教諭が、研修生として以下のとおりの研修に励んでいます。

<学力向上に係る校内研究体制の取組支援のために>

【長期研修生】

- ・全国学力・学習状況調査の結果分析
- ・所属校SWOT分析による課題の抽出
- ・学校課題改善のための戦略マップ作成
- ・所属校「学力向上プラン」の作成

センター

【指導主事】

- 【所内サポート研修】
指導主事による支援チーム
- 研修内容への指導助言、研修の進捗管理

- ・校内研究会の支援
(計画・準備・運営・研究推進の補助)

所属校等

- 【指導主事訪問】
→研究体制・研究内容に対する助言

<次世代リーダーの育成をめざして>

- 教育センター研修受講（指定研修）
 - ・学校経営基礎 ・評価・育成制度
 - ・学校組織マネジメント ・人材育成
 - ・カリキュラムマネジメント
 - ・学力向上 ・コーチング 等
- 所内指導主事研修への参加
 - ・指導主事としての資質・能力の向上
- 所属校・市町村教育委員会での研修
 - ・管理職や指導主事業務のシャドローイング
- 県外視察、兵庫教育大学訪問 他

【研修情報】副校長・教頭研修より「家庭・地域との協働による学校教育活動の推進」

6月18日（月）に「副校長・教頭研修（A日程）」を中部総合事務所で開催しました。講師にコミュニティ・スクール設置率100%の山口県より萩市立萩東中学校長の宇野孝一氏を招聘し、コミュニティ・スクールの「よさ」を生かして学校課題を解決していく取組についてお話いただいたので紹介します。

三つの「開く」取組を一体的に推進

- ☆開くと課題がみえてくる
- ☆課題解決を目指す中で、連携と協働が生まれ、保護者、地域からの協力も得やすくなる

1 「学校」を開く

「学校のありのままを見てもらう」
「必要に応じて支援をしてもらう」

当事者意識の高まりから協力・支援、参画へと

- (例) ・学校運営協議会と生徒会役員との意見交換会
・環境整備～「てご（お手伝い）の会」の活動～
・共に楽しむ「地域カリキュラム」の開発
・地域ボランティアによる授業支援活動
・土曜塾の取組（学び直しの機会）等々

2 「組織」を開く

学校課題に対応した「プロジェクト制」による組織づくり

本来の組織とは別に、目的を達成するための臨時的な組織・業務

- 「学校文化向上プロジェクト」
- 「キャリアプロジェクト」
- 「心と体プロジェクト」「学びプロジェクト」

学校運営協議会と連動

生徒指導・教育相談・特別支援教育・養護教諭・食育担当・学校運営協議会委員・市教育委員会 等

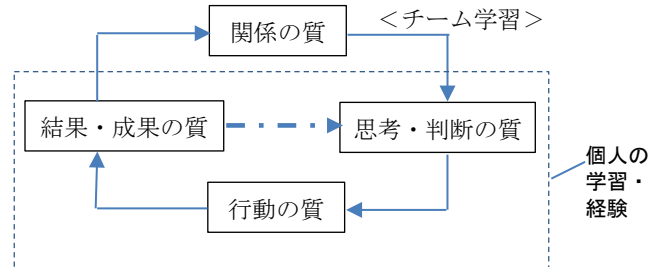
3 「授業」を開く 「人材育成ユニット研修」を通じて

教諭を経験年数によりアドバイザー（主任級）、メンター（10年以上）、サポーター（4～10年）、1～3年目に分け、養護教諭・栄養教諭・学校事務職員及び学校運営協議会委員を加えたユニットを形成し、授業の質の向上をめざして授業研究を実施

「若手教員、ミドルリーダーの育成」 「多様な視点からの気づき」

その他、学校を核とした人づくり・地域づくりとしての「地域貢献活動」の取組やキャリア教育の充実を図るための「立志式」の取組等、興味深い取組を紹介していただきました。詳細については、県教育センターまでお尋ねください。

「組織は人なり」の言葉どおり、人材育成こそが学校の組織力を向上させていく鍵を握っています。そのためにも、今年度策定された「鳥取県公立学校の教員としての資質の向上に関する指標」を各学校で活用していくことが大切です。そして、「指標」が示す資質・能力を実現させていくために有効なのが、「チーム学習」という学びのシステムの導入です。現代の組織では学習の単位は個人ではなく、チームがその単位となるとの考えに基づくもので、チームが学習することをとおして組織の学習が行われ、組織力が向上していくというメカニズムに基づくものです。学校は常に結果や成果の質を求められています。結果や成果の質を上げるためには行動を変える必要があります、行動を変えるためには思考・判断の質を高めていく必要があります。そのためには「関係性」の概念を組み込むことがポイントとなります。学習指導や生徒指導等の「指標」が示す事柄に関して、わずかな時間でも定期的・意図的にチームでの学びの時間を設定することで、個々の教員の知識や経験を他の教員も共有でき、思考・判断の幅が広がっていきます。その結果、行動の質の変容や結果・成果の質の向上につながっていきます。これは、個人の成長と組織の成長とを同時に実現するものであり、大量退職・大量採用時代における教員構成の変化と若手教員やミドルリーダーの力量向上という喫緊の課題への対応方策ともなりうるものです。



【教師の成長メカニズムと「チーム学習」】(北神教授講義資料より)

積極的活用を！ ～「情報活用能力」の育成に向けて～

県教育センターでは、新学習指導要領で明記された「情報活用能力の育成」に向けた各学校での取組を支援しています。授業におけるICT活用教育や情報モラル教育、小学校におけるプログラミング教育の充実に関して、各種研修以外にも様々な支援を行っています。積極的な利用をお待ちしております。

出かける
センター

今年度はICT活用教育・情報モラル教育に加え、小学校におけるプログラミング教育もメニューに加えました。プログラミング教育の基本から応用編まで教職員向けの実践的な研修を実施します。

ICT
出前研修

ベネッセコーポレーションのICT支援員が学校へ出かけて研修を行います。各校既存の機器を利用して実施しますので、明日からの実践に役立つ技を学ぶことができます。

ICT活用
実践例の紹介

県教育センターのホームページには、研修に関する情報だけでなく、実践例の紹介等、教職員に役立つ多くの情報を掲載しています。とりわけ「ICT活用教育」や「プログラミング教育」に関する情報については最新のものを載せていますのでご覧ください。

「機器は整備されたけど活用が進まない」「今ある機器をもっと活用したい」等、各学校の声にお応えします。



「だっせえー」 ～麻薬の言葉が蝕む世界～

日常生活の中で子どもたち同士の会話に耳を傾けていると、「だっせえー」「調子にのるな」「ウザイ」「キモイ」「ムカつく」など、当たり前のように使われているのがよく分かる。これらの言葉は、使えば使うほど、飛び交えば飛び交うほど、その人やその学級(集団)が壊れていく、麻薬のような言葉だと私は考えている。一方、その言葉を耳にしている側は、二分化される傾向があるのではないかと考えている。一方は、「感覚が麻痺して、これらの言葉に抵抗感がなくなり、最終的にその使用者の仲間入りをするというパターン」(まさに麻薬のような状況が生まれる)であり、もう一方は、「耳に入ってくるこれらの言葉が自分に向けられているものでなくても、その言葉が飛び交う現実・環境に、どんどん心が傷ついていくというパターン」である。

例えば「だっせえー」という言葉。この言葉は、普段、こんな場面で使用されている。例えば、廊下を歩いている人が濡れた床で足を滑らせた。それを見ていた周りの子どもが「だっせえー」というのである。この言葉は、その人に向けて発しているという自覚は、発した本人にはない場合も多い。

このことから分かることは、「みっともないこと、人に見られたくないこと」を人に見られることは、子ども達にとってタブーだということである。つまり、失敗を人に見られることが許されない世界で子ども達は生活しているということである。

このような場面に出くわす度に、子ども達にいつも問いかけてきた。「それって、ダサイことなのかなあ?」「失敗をしない人があるのかなあ?」「人間らしいと思わない?」と。集団の中で一人一人の子ども達がのびのびできない状況と、この「だっせえー」という言葉が飛び交う現実とがオーバーラップしてしまうのは、自分だけなのだろうか。

所長 小林 傳